

を求めたりする学校外への対応は他の項目と比べて少ない。

イ 進んでいる児童への対応

- 進んでいる児童に対しては、他の問題に挑戦させる、他の考えで解決させるなど、さらに伸ばそうとする対応が多くみられた。

【資料 2】

遅れがちな児童への対応をどうしていますか	
1 注意をはらいながら授業をしている。	65(人)
2 放課後居残りさせての個別指導。	33
3 時間がないので特別な指導ができない。	19
4 特別な課題(宿題)を与えている。	11
5 保護者に連絡をしている。	1
進んでいる児童への対応をどうしていますか	
1 他の問題に挑戦させる機会を多くしている。	56(人)
2 他の考えで解決するよう促す。	42
3 遅れがちな児童を助けさせる。	32
4 そのままにしていることが多い。	4
5 進んでいる児童は特にいない。	2

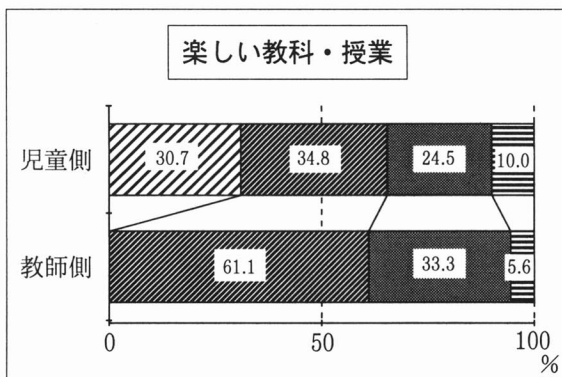
※ 複数選択可

(2) 「学習に対する意識と行動調査研究」との関連から

① 算数の教科・授業イメージ

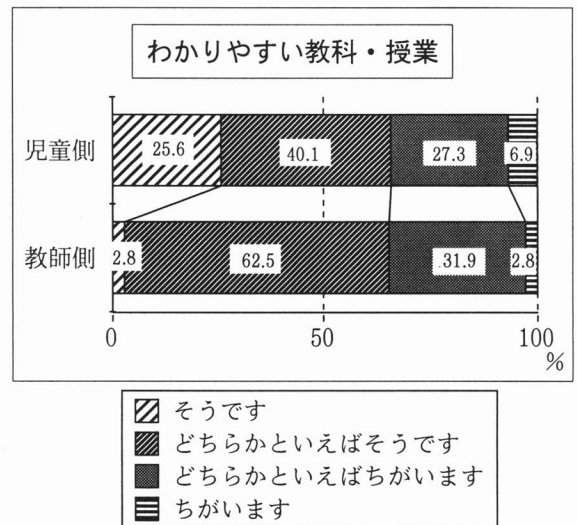
児童と教師の教科・授業イメージを比較した結果をグラフに表すと、次のようになる。

(児童側への調査項目は「算数は楽しいですか」、教師側への調査項目は「あなたの算数授業は児童にとって楽しい授業になっていますか。」である。「わかりやすい教科・授業」についても同様である。)



教師側に「そうです」と肯定的に答えた回答はなかった。

※ 複数選択可



児童側の教科イメージと、教師側に対する調査項目「あなたの算数授業は児童にとって楽しい授業になっていますか。」「あなたの算数授業は児童にとってわかりやすいですか。」を比較した。2つを比較すると、「そうです」「どちらかといえばそうです」を合わせた肯定的な回答の割合が、ほぼ同じになっていることが明らかになった。

この結果だけで断定できるものではないが、私たち教師が算数を「楽しく」「わかりやすい」授業にしていくことが、児童にとっては、「算数は楽しい教科」「算数はわかりやすい教科」になっていくのではないかと考える。

② 算数のわかりにくい単元

下の表は、算数の学習でわかりにくい単元について、児童の調査結果を多い方から順に並べたものである。〈児童がわかりにくい単元〉

順位	単元名	学年	%
1	□を使った式	3	53.0
2	がい数	4	45.0
2	単位量当たりの大きさ	5	45.0
4	文字と式	5	39.0
5	角	4	37.3
6	かわり方調べ	4	35.3
7	百分率とグラフ	5	34.8
8	体積	5	34.7